

株式会社津軽りんご市場

## 令和6年産 葉とらずりんご今後の栽培管理

公益財団法人青森県りんご協会  
中野真太郎

はじめに…

・葉とらず栽培とは

着色管理における葉摘み作業を行わない栽培方法ですが、「葉摘みをしなくても着色するような栽培管理」という考え方



### 葉とらず栽培に関する本会の働きかけ

- ①本会青年部での取組み（2000年代、2010年代の2回）
- ②りんご品評会（会場弘果・弘前中央青果）での出品及び展示



### 「葉とれず」「着色不良」りんごとの差別化

- ・葉とらずりんごの立ち位置  
→「無袋」「有袋」に加わる新たな栽培方法としての「葉とらず栽培」
- ・求めている品質  
→葉とらずとしての**着色**（濃さ）や**地色**の上り、そして**味**（果汁やコク）



葉とらず栽培に取り組んでいる園地の様子①



葉とらず栽培に取り組んでいる園地の様子①



写真撮影時は雨天のため暗いものの、下から結果母枝を見ても空が分かる。  
➡十分に光が入るような樹形を剪定で整えている

剪定は日光の投射に加え薬剤の通りも意識している

葉とらず栽培に取り組んでいる園地の様子②



葉とらず栽培に取り組んでいる園地の様子②



①の園地よりは枝は厚めだが、樹冠内に入ると空間があり明るい。  
下垂した枝は支柱入れや枝吊りで空間を確保。

過度な剪定は避け、まずは樹勢を落ち着かせる

## 葉とらず栽培のメリット・デメリット

### ・メリット

- ①収穫・葉摘みといった作業が重なり集中する時間を分散できる
- ②日ヤケや鳥害が比較的少ないと思われる。
- ③葉が残ることで光合成により樹体養分の蓄積が多く、花芽のバラつきが少ないと感じる。

### ・デメリット

- ①樹体の内側にある果実の着色が難しく良品率が若干低くなる。
- ②着色系への更新が必要（手間）
- ③販売先の確保（葉とらずの多様化）

## 葉とらず栽培の要点

- ・樹形の意識
  - ➔樹冠内は明るく光が入るように
- ・樹勢管理
  - ➔強樹勢にならないよう細かい葉が着くような樹勢が理想
- ・支柱入れや枝吊り
  - ➔葉摘み作業の代わりに行う。枝の空間を作る
- ・着色系への更新
  - ➔無着色では商品価値は低くなる。自園地に合った葉とらず栽培の系統を見つける



## 最後に…



りんご協会では、令和6年7月から広報ツールとしてメルマガをリニューアルしました。誰でも受信できますので、よければ登録をお願いします。毎月2〜3回の定期配信。不定期で講座等の案内も配信しています。



スマホのカメラ機能でQRコードを読み取り、メールアドレスなどの情報を入力するだけ